

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

小学校 第5学年 「国語（教育出版）」

122時間（70%）

週	重点に置く指導事項	単元名	教材名	時間数	留意点
五上					
1	Aエ 知・技(1)ア Cエ 知・技(1)ク	言葉で伝え合おう	わたしは木	1	・連想ゲームなどに取り組み、友達の言葉をよく聞くことを中心の活動とする（一定の距離をとる）
			水平線 うぐいす	2	・言葉の響きや間の取り方、声の強弱に気を付けて音読することを中心の活動とする
2	Cイ 知・技(1)ク	一 くふうされた表現をもとに、登場人物のしんじょうをそうぞうして読もう	いつか、大切なところ	5	・手がかりとなる表現から中心人物の心情の変化に着目させ、変化した理由を考えることを中心の活動とする
			新聞を読もう	3	・同じ出来事扱った新聞記事を読み比べ、記事の配置（割り付け）や本文内容の違いを読み取ることを中心の活動とする
3	Bア 知・技(1)オ 知・技(1)エ	二 事例と解説をもとに、言葉と事実との関係を考えよう	「情報ノート」を作ろう	3	・「情報ノート」は家庭での課題にしたり、随時掲示して紹介したりして、継続して取り組ませる
			漢字の広場① 漢字学習ノート	1	・後で読み返して活用できる漢字学習ノートのまとめ方を指導する
4	Cウ 知・技(2)ア Cア 知・技(2)ア	二 事例と解説をもとに、言葉と事実との関係を考えよう	人とねずみの「はい、チーズ！」	6	・同じ言葉でも異なる働きをすることに気付かせる
			言葉と事実		・家庭で事前に読むことを課題とし、導入段階で大まかなあらすじを確認する ・筆者が説明していることは、事例のどの部分がもとになっているかを読み取ることを中心の活動とする
5	知・技(1)イ	三 伝わるように構成を考えよう	話し言葉と書き言葉	2	・相手の立場や気持ち、相手の受け取り方などを考えさせる
			「町じまん」をすいせんしよう	4	・教材文を基に、〈始め方〉〈理由の述べ方〉〈終わり方〉といった構成の工夫の仕方を中心に指導する（状況によっては時期を入れ替える）
6	Bイウ 知・技(1)イ	三 伝わるように構成を考えよう	ポスターを作ろう	4	・相手や目的、内容を考え、構成や表現を工夫して書くことを中心の活動とする
			漢文に親しむ	3	・漢詩や漢文の言葉の響きやリズムを味わいながら音読することを中心の学習とする
7	知・技(1)ケ 知・技(3)ア 知・技(1)キ 知・技(1)オ	三 伝わるように構成を考えよう	敬語	2	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			漢字の広場② 複合語	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
8	知・技(1)エ Aエ 知・技(2)イ Cエ 知・技(1)ク 知・技(3)ウ	三 伝わるように構成を考えよう	四年生で学んだ漢字②	-	・①②③をまとめて扱う
			知りたいことを決めて、話を聞こう	2	・意図をもって相手の話を聞き、話の要点を捉えることを中心の活動とする
9	書写	三 伝わるように構成を考えよう	◆詩を味わおう 素朴な琴 鳴く虫 山のあなた	2	・音色や鳴き声に着目して詩の朗読をすることを中心の活動とする
			字形	3	・正しい筆順で書くことや、部分同士の位置や大きさの関係を意識させる
10	Cイエ 知・技(1)オ 知・技(1)オ Bアカ	四 物語の全体像をとらえ、やま場の場面を見つけて読もう	インタビュー	2	・すばやく書き留める方法を理解させる
			大造じいさんとがん	6	・物語の「やま場」での中心人物の心情や行動の変化を読み取ることを中心の活動とする
11	知・技(1)オ 知・技(1)エ 知・技(3)ウ 書写	五 考えを広げるために、立場を決めて話し合おう	鳥	1	・鳥が出てくる言葉や歌、俳句を声に出して読み、語彙を増やしていく
			俳句を作ろう	3	・俳句を書いた短冊は教室掲示し、互いの作品のよさを共有できるようにする
12	Aオ 知・技(2)ア	五 考えを広げるために、立場を決めて話し合おう	AIとのくらし	5	・教師側でテーマを明示し、それぞれの役割を決めた上で、自分の考えを整理する方法やミニディベートの進め方について理解させる
			漢字の広場③ 熟語の構成	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
12	知・技(1)オ 知・技(1)エ 知・技(3)ウ 書写	五 考えを広げるために、立場を決めて話し合おう	四年生で学んだ漢字③	1	・本時で①②③をまとめて扱う
			方言と共通語	1	・それぞれの特徴を理解させる
12	書写	五 考えを広げるために、立場を決めて話し合おう	筆記具の選択	3	・目的に合った筆記具を使い分けながら書くことを意識させる

五下					
13	Bウ Cウオ 知・技(1)ア	一 多様な情報を読み、根拠となる資料にもとづいて、考えを深めよう	世界遺産 白神山地からの提言——意見文を書こう	7	・教材文と資料を読むことを家庭での課題とし、白神山地の課題点を確認させる ・P.18,19のモデル文を基に、自分の意見とその根拠をつなげて意見文を書くことを中心の活動とする
			「古典」を楽しむ	3	・それぞれの物語の概略と引用された原文の内容の大体を知り、古文を音読することを中心の活動とする
			かなづかいで気をつけること	1	・練習問題等を用意し、理解の確認を行う
			漢字の広場④ 漢字の成り立ち	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
14	知・技(3)イ 知・技(1)ウ 知・技(3)ウ 知・技(1)エ		四年生で学んだ漢字④	-	・④⑤⑥をまとめて扱う
15	Cイカ 知・技(1)ク Bイウ 知・技(3)オ	二 表現の効果を考えながら、登場人物の関わりをとらえて読もう	雪わたり	5	・比喩を使った情景描写やリズムのある表現の効果を考えさせ、「雪わたり」の魅力を伝え合うことを中心の活動とする
			「図書すいせん会」をしよう	4	・ポップや帯といった紹介する方法を理解させ、それぞれの特徴を生かして、本を推薦する文章を書くことを中心の活動とする
16	Aエオ 知・技(1)ア 知・技(2)ア		言葉で伝える、心を伝える	3	・相手の話の意図を考えながら伝え合うことを中心の活動とする
17	Cエ 知・技(1)ク 知・技(3)ウ		◆詩を味わおう はたはたのうた 雪	1	・言葉の響きや繰り返しの文に着目して詩の朗読をすることを中心の活動とする。
			書写		2
18	Bオカ 知・技(1)カ 知・技(3)ウ 知・技(1)ウ 知・技(1)エ	三 事実と意見を結びつけて書こう	提案文を書こう	4	・テーマ設定から構成メモを作るまでを授業で行い、スピーチ原稿の作成は家庭での課題とする ・推敲と共有を行うことを中心の活動とする(参考：県教委オンラインサポート授業「提案する文章を書こう」)
			和語・漢語・外来語	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
19	知・技(1)ウ 知・技(1)エ		漢字の広場⑤ 同じ音の漢字	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			四年生で学んだ漢字⑤	-	・④⑤⑥をまとめて扱う
20	Cウオ 知・技(1)オ 知・技(2)イ Aイウ 知・技(2)イ 知・技(1)ウ 知・技(1)エ	四 「まんがの方法」とその効果について、自分の考えをもと	まとめ	3	・5年生のまとめとして、学習したことを生かした作品が書けるように指導する
			まんがの方法	4	・筆者が「まんがの方法」を紹介する時、どのような手順で説明しているかを考えることを中心の活動とする
21	B C 知・技(1)カ Aウ 知・技(1)カ	五 みすゞをさがし求めた筆者について、考えをまとめよう	ひみつを調べて発表しよう	4	・伝える目的にそって適切な資料を使い、内容の構成や資料の示し方を工夫して発表することを中心の活動とする
			漢字の広場⑥ 送りがなのきまり	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
21	知・技(1)エ		四年生で学んだ漢字⑥	1	・本時で④⑤⑥をまとめて扱う
			みすゞがしの旅—みんなちがって、みんないい	4	・「書くこと」「読むこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する
21	Aウ 知・技(1)カ		国語の学習 これまで これから	2	・1年間のまとめとして、何を学んだのかを振り返らせる

※時間数の精選方法（例）

○3領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする。

・複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力（指導事項）を身につけさせるのかを明確にすることで、授業時間の削減が可能となります。例えば、教材「世界遺産 白神山地からの提言——意見文を書こう」では、指導事項ウの「目的や意図に応じて事実と感想、意見を区別して書き、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」を中心に指導し、教材「提案文を書こう」では、指導事項オ・カの「文や文章を整えてお互いの文章のよいところを見つけること」を中心に指導を行います。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」も同様です。

○家庭での課題として取り組ませることで、学習を補う

・言葉に関する学習に出てくる設問などは家庭での課題として取り組ませ、後日、確認を行います。「漢字の広場」については既習内容があるので、同じく家庭での課題として取り組ませたり、①②③、④⑤⑥をそれぞれ1時間としてまとめて扱ったりします。

○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が〔知識及び技能〕(3)「我が国の言語文化に関する事項 オ」になりますので、詳細な読みは行わないのが一般的です。読書と言語活動を結びつけ、3領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。教材「図書すいせん会をしよう」などの学習から、学校図書館や地域の施設を活用し、家庭での読書につなげることも可能です。

○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導に関しては、小学校5学年では年間30時間程度行うものとありますが、教育出版社では、俳句を書いたり、ポスターを作ったりする「書くこと」の領域の学習において、例えば短冊の書き方やポスターの割り付けで文字の大きさや配置配列といった指導事項をおさえることが可能です。（本資料では、書写に取り立てた指導を15時間（50%）で作成しています）

○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少人数での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や児童の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「情報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。